

彼方「かなた」

校長通信
H25.11.28
Vol.26

【ギャップ！】

昨日二十七日（水）に川村学園女子大学教育学部のみなさんが来校し、授業参観や意見交換会を行いました。国語科（一年一組、二年二組）、社会科（一年三組、二年四組）、英語科（二年四組）の授業をそれぞれ参観してもらいました。



授業参観後の交換会では、次のような感想や質問等が出されました。

○「私が柏市内の中学生だった頃、湖北中は、ガラスが割られたり、先生の指導に従わず暴言を吐いたりと荒れて大変な学校という噂が流れていました。今も湖北中学校のホームページを見ようと検索してみると心配な表題のサイトが出てきました。今でも余り変わっていないのかな、どれぐらい大変なのだろう？と考えながらこの学校に来ました。ところが実際に学校に来て、教室に入って授業を見学させていただいたら、どの子も明るい表情で楽しそうに授業を受けていました。噂で聞いていたのと全く違っていたので、そのギャップに大変驚きました。ここまで改善させるのは、本当にすごいと思いました。ものすごい努力をされたのだろうと感じました。」

○「生徒同士で話し合って、うるさくなくても先生

が指示するとみんなでそちらを注目し、話しをきくことができいました。」

○「グループで自然に分かからないところを聞き合ったり、話し合ったりしているのがとても素敵でした。良い雰囲気でした。」

○「先生から指示された課題に真剣に取り組んでいました。それも協力しながら頑張っているのが良かったと思います。」

○「先生が生徒の意見をすべて肯定的な言葉で捉えていて、決して、『それは関係ないから』というような切り方をしなかったのがすごいと思いました。」

○「難しい説明にも関わらず一年生が全く私語をせず、静かに聞いていたのが印象的でした。中学生ってこんなに静かに授業中いられるのだと言うのがわかりました。」

○「廊下ですれ違った時にちよつと立ち止まって笑顔で挨拶してくれる生徒が沢山いました。とても気持ちの良い学校だと思いました。きっと普段から進んで挨拶しているんだなーと感じました。」

○「全然やろうとしない生徒や学習意欲が低い生徒のやる気を引き出すのに、先生方はどんな工夫をしているのですか？」

○「学力差が大きいとき、どのレベルにポイントをあてればよいのでしょうか？」

○「全員がわかる・できる授業はどのように工夫すればよいのでしょうか？」

○「学校改善を進める上で最初にやろうとしたこと、心がけたことは何ですか？」



本当にいろいろな感想や意見、質問が出されました。一つ一つの質問に丁寧に答えたつもりですが、どれも正解はありません。学校中で積極的に挨拶したり、先生方が仲良く仕事をしたり、学習課題をちよつと難しくしてみたり、わからないときには「教えて」と言えるように指導したり、聞かれたら「いいよ」と言って学び直させたり、やらなければならぬ状況を作って意欲を引き出したり、興味を引くような素材を提示したり、本当に様々な工夫を先生方が積み重ねてきました。それは授業だけではありません。学校行事や委員会、部活動等でも同じです。

そして、何より生徒ひとりひとりが、「学校をよくしたい！」「楽しい学校にしたい！」「色々な面で助け合っている学校にしたい！」という気持ちを強くし、行動変容という具体的な形となって現れたのです。特に二期のスタートで三年生を中心に全校で取り組んだ体育祭が、大成功で終わったのが大きなきっかけでした。その後授業や色々な行事がそれ

までより一段も二段も上向き、変化してきたのをみんなで見感してきたからだと思います。大学生の皆さんがそれを感じ取ってくれたことがとても嬉しかったです。

学校は本当にやりたいことややらねばならぬことを誰にも遠慮せずにみんなと一緒に助け合いながら取り組むことができる場所なのです。